

研究評価委員会  
「国際エネルギー消費効率化等技術・システム実証事業/  
フランス・リヨン再開発地域におけるスマートコミュニティ実証事業」  
個別テーマ/事後評価分科会  
議事録

日 時：平成 29 年 8 月 30 日（水）13：30～18：00

場 所：NEDO 川崎本部 21 階 2101・2102 会議室

出席者（敬称略、順不同）

<分科会委員>

分科会長	秋山 健太郎	学校法人名古屋石田学園	星城大学	経営学部	教授
委員	小島 正禎	東京都環境局	地球環境エネルギー部	都市エネルギー推進担当課長	
委員	鶴崎 敬大	株式会社住環境計画研究所	研究所長		
委員	山中 直明	慶應義塾大学	理工学部	情報工学科	教授

<推進部署>

有倉 陽司(PM)	NEDO	スマートコミュニティ部	部長
諸住 哲	NEDO	スマートコミュニティ部	統括研究員
和田 晃	NEDO	スマートコミュニティ部	主査
大林 研	NEDO	スマートコミュニティ部	主査
鈴木 啓	NEDO	スマートコミュニティ部	主任
竹廣 克	NEDO	国際部	部長
宮尾 孝彦	NEDO	国際部	主幹
平沼 敏彦	NEDO	国際部	専門調査員

<実施者>

西村 信孝(PL)	株式会社東芝	インフラシステムソリューション社	事業開発センター 総合エンジニアリング部	主査
金子 清貴	株式会社東芝	インフラシステムソリューション社	事業開発センター 総合エンジニアリング部	部長
大石 淳也	株式会社東芝	インフラシステムソリューション社	事業開発センター 総合エンジニアリング部	主務
朝倉 啓	株式会社東芝	インフラシステムソリューション社	事業開発センター 総合エンジニアリング部	主務
山口 直樹	株式会社東芝	インダストリアル ICT ソリューション社	海外事業推進室	室長付
村山 勇介	株式会社東芝	インダストリアル ICT ソリューション社	製造・産業・社会インフラソリューション事業部	主事
渡辺 憲二	株式会社東芝	エネルギーシステムソリューション社	ソリューション&サービス事業部	参事
村井 雅彦	株式会社東芝	電力・社会システム技術開発センター	システム制御・ネットワーク開発部	主査

<評価事務局>

上坂 真           NEDO 評価部 主幹

駒崎 聰寛       NEDO 評価部 主査

<オブザーバ>

松坂 陽子       NEDO 国際部 主幹

## 議事次第

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
2. 分科会の設置について
3. 分科会の公開について
4. 評価の実施方法について
5. 事業の概要説明
  - 5.1 事業の位置付け・必要性、実証事業のマネジメント
  - 5.2 実証事業の成果(概要)、事業成果の普及可能性(概要)  
    <Task1~4について>
  - 5.3 質疑応答

(非公開セッション)

6. 事業の詳細説明
  - 6.1 (Task1)新設対象ビルのPEB(Positive Energy Building)の実証事業
  - 6.2 (Task2)交通システムのゼロエミッション化の実証事業
  - 6.3 (Task3)既存住居に対する消費エネルギーの見える化の実証事業
  - 6.4 (Task4)コミュニティマネジメントシステム(CMS)の実証事業
  - 6.5 事業成果の普及可能性
7. 全体を通しての質疑

(公開セッション)

8. まとめ・講評
9. 今後の予定
10. 閉会

## 議事内容

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
  - ・開会宣言(評価事務局)
  - ・配布資料確認(事務局)
2. 分科会の設置について
  - ・研究評価委員会分科会の設置について、資料1に基づき事務局より説明。
  - ・出席者の紹介(評価事務局、推進部署)
3. 分科会の公開について
  - 評価事務局より資料2及び3に基づき説明し、議題6.「事業の詳細説明」および議題7.「全体を通じた質疑」を非公開とした。
4. 評価の実施方法について

評価事務局より評価の手順を評価事務局より資料 4-1～4-5 に基づき説明した。

## 5. 事業の概要説明

### (1) 事業の位置付け・必要性、マネジメントについて

推進部署より資料5「1.事業の位置付け・必要性」及び「2.実証事業マネジメント」に基づき説明した。

### (2) 成果、成果の普及性について

実施者より資料5「3.実証事業の成果（概要）」及び「4.事業成果の普及可能性」に基づき説明した。

(1) 及び (2) の内容に対し質疑応答が行われた。

【秋山分科会長】 ありがとうございます。

成果の普及性については、また議題 6 で扱います。ただいまの位置付けや必要性、マネジメントについて、特に御意見・御質問等ございましたらお願いします。成果の普及可能性に関してでも結構です。

【小島委員】 質問ですが、カーシェアリングの PV (Photovoltaic : 太陽光発電) の優先使用は、電気の残っている量が足りなくても、使用量などを分析し、昼間までは足りない状況でそのまま放っておく形で PV を優先的に入れていくという意味ですか。PV 優先利用という考え方について聞きたい。

また、19 ページに PEB (Positive Energy Building : ビル全体で消費するエネルギーより多くのエネルギーを作り出すビル) の関係で、建築確認が長期化した、竣工が遅れたといった、工事が遅れていることが理由に挙がっていますが、これは建物が特殊だからなのか、あるいはフランス側での手続的なものを見込んでいなかったのか、その辺の事情をもう少し知りたいです。

あとは、実証事業の成果というところで、2020 年や 2030 年の仮定が、どういう根拠で置いているのかが分からなかったので教えていただければと思います。

【山口室長付】 最初の御質問の、EV (Electric Vehicle : 電気自動車) の PV 優先の充電について簡単に御説明させていただきます。おっしゃった通り、できる限り PV で発電した電力を EV に充電しようとはするのですが、やはり EV の利用が最優先ということになります。例えば夜間に予約が入っていて、どうしてもそこで充電しなければいけない時は、PV で発電しなくても充電は行います。ただし、夜間全く利用が計画されていないので、特に充電しなくても影響がない場合は、昼の PV が発電するのを待って充電する仕組みを取っています。必ず PV の電力を発電しないと充電しないというわけではなく、あくまでも利用者に迷惑をかけないという範囲での制御という形になります。

【小島委員】 カーシェアリングの予約はどれくらい前といった条件を決めて、あらかじめ分かっていて、それに合わせて調整していくという考え方ですか。

【山口室長付】 カーシェアの予約は 1 週間くらい前に入る時もありますし、利用の直前に予約するケースも様々あるので、状況が変わったら定期的に毎回充電スケジュールを見直し、急遽充電が必要になったら、できるだけ利用者に優先的に貸し出せるように充電を開始することを行っています。

【西村主査】 補足すると、今回の Task2 で行ったのは、車にプラグを差してもすぐ充電しない。PV が発電している時を狙って充電していこうとして、充電時間をずらしています。その結果として、充電した時に太陽が照っていたら PV を利用したという計算をしております。

2 番目の Task1 の内容ですが、最初の建築確認の申請自体は予定通りされたのですが、当局の審査期間が予定より 3 カ月延びたことと、これは後で知らされたのですが、確認申請が出た後に、こういうビルを建てるということで、パブリックコメントを収集する。そのためにまた 3 カ月間の収集期間があったということで、どちらかというコントロールできなかった要素と判断しております。

それと、これは後半で述べるところであり、内輪話的になるのかもしれませんが、ビルの竣工時に、これは分譲という形になっていますので、取りあえず引渡しを優先してしまった。調整がまだ終わって

いないけれども、売買契約を優先し、今度はテナントが入った後にまた調整をしなければいけないといったところで調整期間が延びてしまい、データを取るのが遅れてしまったというのが実情です。

やはり商業ビルをこういう対象にするのがいいかどうかということもあり、不動産会社としては契約をしないとお客から損害賠償を取られるという、そのせめぎ合いという結果になっております。

3つ目の2020年、2030年時点のところです。計算表がありますが、設定条件としては年に1棟ずつHIKARIビルと同等ということで、1万2000㎡くらいの複合ビルがこのエリアに建っていくということで、2030年の時点で23棟くらいが導入されるという条件で計算しています。それとカーシェアについて、2020年時点で1000台、2030年時点で4000台と書いている理由は、これは後の方で述べようかと思ったのですが、今回狭い地域、1.5㎡のところでは1000台やったら、車で全部埋まってしまうし、カーシェア自体の利便性を考えるともう少し広域なところでサービスをしなければいけないだろうということです。具体的にはこのコンフルエンスの再開発地区だけではなく、リヨン市全体でのサービスになってくると捉えており、その時の規模であれば、2020年で1000台、2030年で4000台というのは、それ程離れた数字ではないと捉えています。

Task3については、フランスで平均として20%強の市民がこういう公営住宅に住んでいることになっていますが、その中で年間20%のうちの5%ずつ、こういうシステムがもし導入されたらということ考えています。ただ、利用率は今実証の中でも9%に留まっていますので、インセンティブを与えたとしても20%、30%といった利用率に留まるものとして、歩留まりを考えて削減効果を算出しました。

【山中委員】 30ページの表の見方を教えていただきたい。

効果は分かるのですが、多分東芝様がビジネスとして考えた時に投資対効果として考えないといけないと思います。例えば5kl/年というのは、原油が1リットル幾らか分かりませんが、5万円とか10万円ぐらいにしかならないわけです。実証費用がそのまま投資とは言わないけれども、もう少し可能性を示すのだとすると、値が良くなりますというのではなく、投資対効果の形で評価していかないと、多分効果としては分からないのではないかと思います。実証費用と、右と左では桁が全然違うでしょう。

【西村主査】 それは承知しております。

この実証費用との比較では、そのまま単年度の効果で割ると、1リットルあたり、今はいろいろ変動がありますが、例えば35円と仮定したとしても、単純な投資回収としては、やはり3桁年という数字になるのは事実です。これはシステム全体としてやっていますので、もしも今後力点として置いていくのであれば、Task1であればBEMS (Building Energy Management System : ビル内の機器・設備に対してエネルギーを中心としたモニタリングや自動制御を行うシステムのこと) だけに焦点を絞り、投資対効果を分離する必要があるのではないかと考えています。

【鶴崎委員】 私は事後評価から関わらせていただいていますので、そもそも成り立ちと伺いますか、基本的なところを確認させていただきたい。今御説明いただいたTask1~4の内容は、NEDOが幅広く提案を求めたものに対して、東芝として個々の内容、この4つのTaskを提案されたのか、それともNEDOである程度こういうことをやってほしいといった建て付けの中で、東芝がこういうことはできるといった提案をされたのか。また実証は世界各地でやられていたかと思いますが、今回はリヨンということで、その辺りはどういう関係でやられていたのか。実際にプロジェクトが進んでから、始まった時には、合意形成などでNEDOがGrand Lyonとやり取りをするという形で、実務の方は東芝さんに基本的にはお願いして、報告を受けたり、いろいろ意見交換はあるにしても、NEDOは直接現場で動くような関わり方はしていないという見方で宜しいでしょうか。

【諸住統括研究員】

このプロジェクトに関していうと、Grand Lyonとのコンタクトを始めたのはNEDOが先になります。

す。ちょうど NEDO も最初にニューメキシコで、先進国を相手にスマートグリッドのプロジェクトの第 2 弾の他の実証場所を探しているタイミングでした。ヨーロッパ全体で先ほど紹介があった 20-20-20 の EU 指令が出てきた後に、ヨーロッパの都市宣誓みたいなものがあり、各都市がスポンサーを探しながらこういう実証をやろうという機運になった。その時に、当時 NEDO が ADEME (フランス環境・エネルギー管理庁) というフランスの政府機関とコンタクトしている中で、NEDO がフランスでの実証に興味を持っているらしいということで、リヨン側から NEDO にアプローチがあり、そこからコンタクトが始まって、それで建て付けを作った。今回の 4 つの Task は、当初 3 つだったのですが、その Task に関しては、一旦 NEDO が様々な企業と共に、向こうでワークショップをしながら、最終的にはフランスの、特にリヨンコンフルエンスを中心として、どういうことをやりたいかをお互いに議論して、まず枠組みを作って、その枠組みを遂行してくれる企業を公募したということです。当時は 3 つのコンソーシアムといいますか、企業群が提案して、その中で東芝さんが選ばれたという流れになっています。

また、プロジェクトが始まってから全て東芝さんに投げているのではなく、常に NEDO 側の方も、そのプロジェクトにコミットして、毎年のように、いわゆるステアリングコミッティを開催しながら、常にリヨン側と議論を行い、最終的にはプロジェクト終了後の今後についてもいろいろと議論をしたという流れになっています。

【山中委員】 付随した同じ質問なのですが、この 5 年間の間にステアリングコミッティで、プログラムの一部を追加するとか見直すといったことはどの程度やっているのですか。この分野は、この 5 年間で日進月歩だと思うのです。例えば見える化などは、2010 年は考えられることですが、後半になったら、多分やっていないのではないかと思ったのですが。そういうところは十分にフレキシビリティを持っているのですか。それとも相手もいることなので、当初の計画通り進んでいるのですか。

【諸住統括研究員】 NEDO プロジェクトは意外と途中の情勢変化で変えることもあるのですが、このプロジェクトに関してはフランス側の要望でやってほしいと。Task3 に関して言うと、これはかなりフランス側から強く言われていて、リヨンコンフルエンスという地区の再開発のうち、川に近い北側の地域は完全にスクラップ&ビルドをするので、HIKARI ビルのような新しいビルができて、それで省エネ効果が出せるのです。しかし南側は既に既築の建物があって、かつそれ程所得の高くない人たちが住んでいて、そこでやれる省エネはこれくらいしかないということで、是非 Task3 をやってくれという形でかなりフランス側から強く要望されてやったわけです。

始めた頃は見える化や、あるいは 1990 年代の終わりぐらいからアメリカがやった DSM (Demand Side Management : 電力消費に関して、需要家 (消費者) 側の電力消費を供給側がある程度制御することにより、電力受給の協調を実現すること) でも Energy Audit という形のもので、一番コストパフォーマンスがいいこともあってやったのですが、アメリカや日本から見るとフランスの消費原単位が低いので、見える化をしてもそれ程投資対効果が出ないことが分かってきました。けれども途中で、ほかにこのエリアでできないことがないので、Task3 については最後まで完遂したという形で進んだと考えてもらえばいいと思います。

【秋山分科会長】 先ほど小島委員からお話がありましたが、特に Task1 のスケジュールの遅れに対して、1 年間伸びていますので、予算等の変更などはどうだったのでしょうか。予算が増えたとか増えなかったとかはどうなのでしょう。

【有倉 PM】 資料 5 の 20 ページにあります。2016 年度に必要な運用費等で、2 億 6600 万円を追加した形になっています。

【秋山分科会長】 先ほど山中委員からの話とも関係するのですが、当初の目標の予測技術が、欧州やアメリカ辺りはかなり進化していると思います。そこから目標設定は変えられていますか。現在 20%の誤

差で目標達成ということですが、その辺の見解を教えていただければと思います。

【西村主査】 技術としては、目標は変えていません。予測技術等々発展があるのは承知しているのですが、システムを導入したのが 2012 年という段階になり、そこでもう実証システムのデータ取りを開始していたので、その時点での目標値といったところで捉えています。

【秋山分科会長】 分かりました。ありがとうございました。それでは、他にも御意見、御質問等多数あるかと思いますが、予定の時間が来ましたので、次の議題に移るということで、またその中で御質問をよろしく願います。

(非公開セッション)

#### 6. 事業プロジェクトの詳細説明

省略

#### 7. 全体を通しての質疑

省略

(公開セッション)

#### 8. まとめ・講評

【秋山分科会長】 まとめ・講評になります。

それでは、山中委員から始めていただいて、最後に私ということで、まとめ・講評を宜しく願います。

【山中委員】 まず、このプロジェクト全体がフランスを中心とする海外と連携をした大規模なプロジェクトで、5年間という長い間御苦勞様でした。やはり日本から輸出するものは、モノではなくシステムやパッケージングした、運用まで含めて輸出していくものを狙う場合、そういうものやっぴかなくてはならないと思いますけれども、このプロジェクトはそういう意味では非常に大切な位置付けだと思って、聞かせていただきました。

その際に、海外ではエビデンスを持つことと同時にパートナーシップです。海外に軸足を置くために、日本だけではできないことをやっぴかなければいけない、ということを今後お考えいただければと思います。

個別の技術には先ほどから質問させていただいたので結構だと思いますが、これは NEDO にお願ひしなければいけないのかもしれませんが、この分野はかなりこの 5 年間で動いていて、やはりプロジェクトをダイナミックに組み替えていかなければ可哀そうなところもあったのではないかと思います。フランスが動かない部分もあったということはよく理解できましたが、そうは言っても、当初の予定でやっぴも余り上手いかなかった部分もあったのではないかと思います。このところは反省ではないかと思ひます。

それでも、一応これを完遂したとして、受託者様はノウハウの蓄積やビジネスの取り掛かりなどを作っぴいかななくてはいけないと思ひます。小規模ですが出来上がっているところもあるので、それを上手く海外展開若しくは国内展開として、水平だけではなく垂直にも展開していただければと思ひました。

【鶴崎委員】 今日は大変先進的な取組について勉強させていただき、本当にありがとうございます。2 つあるのですが、一つは個別の中であつた PEB、世の中的には ZEB (Net Zero Energy Building : エネルギーを自給自足し、化石燃料などから得られるエネルギー消費量がゼロ、あるいは概ねゼロとなる建築物のこと) の方がまた馴染みがあると思ひますが、そういったものを建物の方では目指しつつ、スマートコミュニティの実現に貢献していく。その中で、先ほど細かいセッションの方で山中委員からも

ありましたが、単独のビルでZEBを目指そうと思えば、省エネを思い切りやっつけてしまえばということになってしまいかねない。やはり大事なのは、まずは現実的な技術で、省エネでどこまでできるかをきちんと見極めていくこと。次に、やはり現実的なレベルで省エネをどこまで、あるいは蓄エネを自ビルの中でどこまでやるのか。その次にコミュニティレベル、あるいは系統も一つのバッファだと思つので、そういったものをどう利用していくのか。最後に、例えば全体ではどうしても無理でも、グリーン100%といったものを目指すのであれば、クレジットのようなものを利用していか、いろいろな段階でZEB的なものを実現していくアイデアがあると思います。是非その中でコストなどいろいろな切り口での最適解を提案していただけるような知見の蓄積ということで、今回は一つのケーススタディだったと思うので、NEDOの方からまたZEB的なものをどう位置付けて発信していくかを考えていただければと思います。

2点目ですが、東芝の説明で印象的だったのは、Task1のHEMSのところ、暖房の制御で節約できたという中で、かなり様々なデータを取られて、人感センサーでいろいろな行動を詳しく把握した中で、暖房を自動制御することで3割以上削減できたということは、私は非常に素晴らしい結果だったのではないかと思います。ここから読み取れることは、多数のデータを取得できる環境が整ってきて、それはセンサーだけではなく機器の使い方情報などもこれから集められるようになれば、東芝は照明から家電製品それぞれまで、住宅の中で多くの機器を扱っているので、そういうデータをどう組み合わせるのかも含めて、行動のところを是非活かしていただきたいと思っています。

というのは、先ほどTask3の中で御紹介があったOPOWER社という会社がありました。これはエネルギーレポートを送ることで、省エネを2%、3%実現するというところですが、彼らがやっている省エネ率がどうして実現できているかは、実はアメリカでもミステリーだといわれていて、何が違うか分からないというのです。いろいろ細かくインタビューなどをして調べても、電球1個持っているか持っていないかの違いぐらいしか分からなかったということもあり、まだ分かっていない領域です。そういう意味では、多くのデータを集めてそこから見えてくる世界が、フロンティアとしてまだまだ残されていると思うので、是非そういったところにチャレンジしていただければと思います。ありがとうございました。

【小島委員】 御説明ありがとうございました。私もお話を聞いている中で、東京都でも何か導入できるものがないかと思って、非常に興味を持って聞かせていただきました。今日お話の中で、やはり海外で事業展開する難しさ、規制の問題や現地スタッフの技術力の問題など、いろいろ難しい課題に直面しながら、日本の技術力を活かした実証ができたのだらうと思っています。

PEBにしても、EVのカーシェアリングなどにしても、非常に技術力を活かした形でやれていると思うのですが、今回、やはり日本の事業として日本がある程度負担したことで、導入されたということもあると思います。この事業の位置付けとして、日本の技術をパッケージとして海外展開していくものがありました。ビジネスとして普及させていくためには、やはり高性能でも高コストであればなかなか採用されないということもあると思うので、相手のニーズもよく汲み取りながら、入札でも勝っていけるような形で拡大していくビジネスモデルの構築が重要だと思います。是非とも頑張ってくださいと思います。今日はありがとうございました。

【秋山分科会長】 ありがとうございました。

それでは、最後になりますが私の方から。NEDOの皆様、東芝の皆様、長期に亘り本当に御苦労様でした。それから、本日は委員の皆様、貴重な御意見ありがとうございました。

全体的には、成果をあげたプロジェクトだと思います。

私は2010年の当プロジェクト採択時に関係させていただきました。この時期、アメリカのオバマのグリーンニューディール、EUの気候変動パッケージ、フランスのグルネル法などが公表された中で、

当プロジェクトは、エネルギーセキュリティ、地球温暖化対策、省エネルギー、効率向上を兼ね備えた未来型都市モデルの構築を目指したもので、時宜を得たものだと私は思っています。

NEDOの支援により、フランス政府とかなり緊密な関係構築ができ、相手国企業を加えた実証体制が整えられ、4つのタスクの実証事業がなされました。目標に届かなかった項目もありますが、Task1のPEBにおいては、未来都市のシンボリックな建物が現実のものとなりました。Task4のCMSでは、EU委員会のイノベーションプログラム Smarter Together で採用されるなど欧州大でも注目を集めており、今後、期待がもてます。Task2のEVシェアリング、Task3の公営住宅のエネルギー消費の見える化においても多くの市民を巻き込みデータの蓄積ができ、成果をあげられました。

当プロジェクトは、EU委員会が行った世界のスマートコミュニティプロジェクトの評価の中で、西村主査から説明がありましたように、ハイコスト・ハイインパクトの分野で高い評価を得ています。この中で、何が課題かという点、ビジネスの可能性をうたっています。私も同じように考えています。本事業の普及策に対して、本日いろいろ具体的な御意見を頂きました。例えばシミュレーション手法など当プロジェクトの中で確立したもので、今日発表がなかった成果がたくさんあると思います。そういうものも加味して、しっかりしたビジネスモデルを作って、普及戦略に繋げていただければと思います。

最後に、わが国のインフラ輸出ということで始まったものです。今後普及戦略をしっかり構築し展開していただければと思います。

私は全体的には、成果としてはかなり素晴らしいものだったと思っています。

以上です。どうもありがとうございました。

それでは、推進部長及び国際部長の方から一言ありましたら、お願いします。

**【有倉 PM】** スマートコミュニティ部の有倉です。

本日は非常に長い間、御審議いただきありがとうございました。このリヨンのプロジェクトは非常に長い間、多くのタスクに亘る事業を実証していただきましたが、もちろん技術的な知見が得られたということもありますが、これを海外で実証することにより、その難しさや維持なども、非常に多く知見が得られたのではないかと思います。

今回、幾つか技術的な知見が出たところで、それを今後どう展開していくのかについては、非常に多くの御示唆を頂いたと思っています。一つは、得られた知見をどう一般化、標準化して、世の中で使われていくものにするのかということもそうですし、ビジネス展開をするに当たっては、その強味の部分をどう組み合わせ、統合してビジネスモデルなりに繋げていくのかということも非常に重要であるという御示唆も頂いたと思います。そういった面で、事業者の方々においても、今後の御検討に活かしていただければと思いますし、私どももまだ国際実証を多くやっています。今回の知見も踏まえて今後の実証の実施に役に立てていきたいと思っていますので、引き続き御指導をいただければと思います。本日はありがとうございました。

**【竹廣部長】** 国際部長の竹廣です。

本日は長い時間をかけて評価をしていただきありがとうございます。我々国際部はこのエネルギー実証の全体を見ている立場ですが、この事業に限らず様々な御示唆を、今日評価委員の方々から頂いたと思っています。

1つ目は、技術進歩などが非常に速い分野である時に、こういった実証をどのように柔軟性を持たせてやっていくのかというところは、我々の制度の中でどのように技術の流れを見て、どのようにフレキシビリティを持っていくのかが、一つの大きな課題だと思っています。

2つ目は、今、有倉からもありましたが、実証を始める前の段階で、終わった後の経済性をどう見るか、またビジネスモデルをどう構築していくかといった検討をきちんとやっていくことの重要性を、ま

ず感じました。

3つ目は、これは海外でやるものですから、どうしてもリスクが伴うわけですが、一方で、NEDOで様々な実証をやってきている中で、ある意味では共通した課題、リスクも見えてきていますので、そういったリスクをきちんと見える化して、こういうことが起き得るのではないかとということを前もって考えておく。それによって、ただリスクがあるから仕方なかったというのではなく、そのリスクをきちんと前もって定義し、それに対して次善の策を取っておく。今回も施工業者の質など様々な見えないリスクがありましたが、実はこの事業以外でもいろいろな事業で同じようなことで起きています。そういったことを前もってどう考えておくのか、NEDOとして知見をためて、委託先また実施者の方々に意見交換しながら、対応を事前に考えていくという体制を作っていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

**【秋山分科会長】** ありがとうございました。以上で議題8を終了します。

9. 今後の予定

10. 閉会

## 配布資料

- 資料1 研究評価委員会分科会の設置について
- 資料2 研究評価委員会分科会の公開について
- 資料3 研究評価委員会分科会における秘密情報の守秘と非公開資料の取り扱いについて
- 資料4-1 NEDOにおける制度評価・事業評価について
- 資料4-2 評価項目・評価基準
- 資料4-3 評点法の実施について
- 資料4-4 評価コメント及び評点票
- 資料4-5 評価報告書の構成について
- 資料5 実証事業の概要説明資料（公開）
- 資料6 実証事業の詳細説明資料（非公開）
- 資料7 事業原簿（公開）
- 資料8 今後の予定

以上